HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第3章　ワークショップの実例 ： 3.アンケートの例
Citation	高等教育ジャーナル, 7, 101-111
Issue Date	2000
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.7.101
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29730
Type	departmental bulletin paper
File Information	7_P101-111.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

3.3　アンケートの例

最後に，平成11年11月に行われた北大教育ワークショップで実施されたアンケートのフォーマットと，回答のまとめを掲載する。ワークショップの自己紹介では，参加した北海道大学の教員のうち積極的に参加した教員はごく少数で，ほとんどは学部長の指名だからとか，学部で教務委員だからとかの消極的参加であった。しかし，事後のアンケートでみるとほとんどがこのワークショップを肯定的に評価し，参加してよかったと言っている。また，今後このようなワークショップを持つことに対して，約半数は是非持つべきであると答え，持ってもよい，持つ方がよいもいれると，全員が，継続することに賛成している。このようにこのワークショップにより教育に対する意識改革が明確に起こった。このFD の効果は明らかである。

(1) プレ・ポストテスト

平成11年度の北大FDでは，プレ・ポストテストという名称で，研修の開始時と終了後に教育に関する同じ内容のアンケートを行った。これは，参加者の研修の前後における教育についての見方の変化を見ようとするものである。アンケートの具体的内容は資料3.3の通り。

資料3.3　平成11年度のFDにおけるプレ・ポストテスト用紙

（プレ・ポスト ←どちらかに○）

教育についてのプレ・ポストテスト

次の各項目について，右欄のはい，どちらともいえない，いいえのいずれかをチェックしてください。

	はい	どちらともいえない	いいえ
1．カリキュラムとは学科別時間配分表および時間割のことである。	ー	ー	ー
2．教育目標とは，教員が何をなすべきかを明確に規定したものである。	ー	ー	ー
3．教育目標を細部に至るまで具体化しておけば，教育計画の不十分な部分を発見することができる。	ー	ー	ー
4．教育目標を設定しておかなくても，正しい評価は可能である。	ー	ー	ー
5．講義は知識の伝達のために必須の教育方法である。	ー	ー	ー
6．問題解決力を教育するには，教師が問題解決の仕方を示すのがよい。	ー	ー	ー
7．学生が実地問題にぶつかる前に関連する基本的知識を教えておかねばならない。	ー	ー	ー
8．学習者に対してやる気を起こさせることは重要なことである。	ー	ー	ー
9．学生の自主的反復学習を促進できる教師はよい教師である。	ー	ー	ー
10．よい教師というものは，生まれながらのものであって作られるものではない。	ー	ー	ー

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（2）プレ・ポストテストの回答のまとめ

平成11年度のプレ・ポストテストの回答を整理して資料3.4が得られた。上段の数字は，総数34のプレテストの回答をパーセントで表示したものであり，下段の数字は，同じ回答者たちのポストテストの回答をパーセントで表示したものである。

まず目に付くことはプレテストでは「どちらともいえない」の項への回答が多いが，ポストテストでは「はい」と「いいえ」に分かれていることがわかり，研修前には質問の意味がよく分からなかったりしていたのが，研修後には質問に対して自分の意見が明確になったことの現れであると思われる。

資料 3.4　平成 11 年度の FD におけるプレ・ポストテスト結果

	はい	どちらともいえない（どちらとも＋無回答）	いいえ
1．カリキュラムとは学科別時間配分表および時間割のことである。	26.5 0.0	29.4（29.4） 5.9（11.8）	44.1 88.2
2．教育目標とは，教員が何をなすべきかを明確に規定したものである。	32.4 41.2	47.1（47.1） 2.9（8.8）	20.6 50.0
3．教育目標を細部に至るまで具体化しておけば，教育計画の不十分な部分を発見することができる。	35.3 64.7	50.0（50.0） 26.5（29.4）	14.7 5.9
4．教育目標を設定しておかなくても，正しい評価は可能である。	5.9 2.9	52.9（52.9） 14.7（17.6）	35.3 79.4
5．講義は知識の伝達のために必須の教育方法である。	5.9 5.9	58.8（58.8） 35.3（41.2）	35.3 52.9
6．問題解決力を教育するには，教師が問題解決の仕方を示すのがよい。	11.8 5.9	50.0（50.0） 44.1（50.0）	38.2 44.1
7．学生が実地問題にぶつかる前に関連する基本的知識を教えておかねばならない。	55.9 29.4	29.4（29.4） 35.3（44.1）	14.7 26.5
8．学習者に対してやる気を起こさせることは重要なことである。	94.1 91.2	5.9（5.9） 5.9（8.8）	0.0 0.0
9．学生の自主的反復学習を促進できる教師はよい教師である。	61.8 82.4	35.3（38.2） 11.8（17.6）	0.0 0.0
10．よい教師というものは，生まれながらのものであって作られるものではない。	2.9 8.8	52.9（52.9） 29.4（35.3）	44.1 55.9

（3）ワークショップ総合評価

平成11年度の北大FDでは，ワークショップ総合評価というという名称で，研修後にアンケートを実施した。質問内容を資料3.5に示す。

資料3.5　平成11年度のFDにおける「ワークショップ総合評価」アンケート用紙

ワークショップ総合評価

1. 今回のワークショップにおける次の各項目について，習得度を自己評価して下さい。

	充分理解できなかった	理解はできたが応用力は不十分	充分な応用力がえられた	無
1）望ましい教授・学習の原理	―	―	―	―
2）教育目標分類	―	―	―	―
3）カリキュラムの構成	―	―	―	―
4）授業設計	―	―	―	―
5）一般目標と行動目標の区別	―	―	―	―
6）教授・学習方略	―	―	―	―
7）小グループ学習方法	―	―	―	―
8）教育評価の原則	―	―	―	―
9）評価方法とその特性	―	―	―	―
10）改善への抵抗の克服	―	―	―	―

2. 上の各項目のうち，非常に興味を持ったものの番号をいくつでも下に記して下さい。

3. 今回のワークショップを，全般的に評価してください。

（1）内容の価値についてどう評価しますか。

価　値 な　し	価　値 少ない	いくらか 価値あり	かなり 価値あり	きわめて 価値あり

（2）内容に対する時間量はいかがでしたか。

多すぎ	やや多い	ほぼ適当	やや少ない	少なすぎ

（3）内容の難易をどう感じましたか。

きわめて 難しい	や　や 難しい	ほぼ適当	少し 易しい	易しすぎ

（4）このようなワークショップ形式の教育方法としての効果についてどう思いましたか。

効　果 な　し	効　果 少ない	ある程度 効果的	かなり 効果的	きわめて 効果的

（5）このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

全　く 不適切	や　や 不適切	ある程度 適　　切	かなり 適　切	きわめて 適　　切

4. 今回のワークショップ全体にわたり，とても良かったと思われる点

５．今回のワークショップ全体にわたり，良くなかったと思われる点（改善すべき点）

6．　1）このワークショップで示されたような教育学的方法を今後取り入れようと思いますか？

全く取り入れる気はない	余り取り入れようとは思わない	少し取り入れて見たい	かなり取り入れて見たい	大いに取り入れたい

　　2）上において３～５に○をつけた方は，現時点であなたの教育の現場で実現の見通しは？

きわめて難しい	かなり難しい	ある部分では可能	かなり可能	全面的に可能

7．今後ともこういうワークショップを持つことに対して

反　対	とくに持たなくてもよい	持ってもよ　い	持つ方がよ　い	是非持つべきである

8．このワークショップの成果に関連して，今後１年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにして下さい。

(4) ワークショップ総合評価の回答のまとめ

平成11年度のアンケート「ワークショップ総合評価」の回答を整理して紹介する。

質問1, 2に対する回答をまとめたものが資料3.6であり，質問3に対する回答をまとめたものが資料3.7である。

質問4「今回のワークショップ全体にわたり，とても良かったと思われる点」に対する回答は次の通りである：

・他学部の教官との交流。
・具体的なテーマ（特定の科目）について科目名の決定から評価まで作業ができたので，全体的なテーマの助けになった。
シラバスに対する考え方（目標など）を知る事が出来た。
討論を深める事が出来た。
・具体的作業があった点が良かった。
・準備周到，完璧。
カジュアルな雰囲気づくりに成功
大学の会議も形式を捨て，このようにあるべき。
・シラバスの作成法
・「さん」の様に，フリーにリラックスして話せる状況である事。

資料 3.6　ワークショップ総合評価　質問 1 の回答のまとめ

1. 今回のワークショップにおける次の各項目について，習得度を自己評価して下さい。

	充分理解できなかった	理解はできたが応用力は不十分	充分な応用力がえられた	無	*質問 2 の回答数*
1）望ましい教授・学習の原理	**2.9 %**	**74.3 %**	**22.9 %**	**0.0 %**	**1**
2）教育目標分類	**8.6 %**	**65.7 %**	**25.7 %**	**0.0 %**	**3**
3）カリキュラムの構成	**5.7 %**	**51.4 %**	**42.9 %**	**0.0 %**	**5**
4）授業設計	**2.9 %**	**52.9 %**	**44.3 %**	**0.0 %**	**5**
5）一般目標と行動目標の区別	**5.7 %**	**38.6 %**	**55.7 %**	**0.0 %**	**9**
6）教授・学習方略	**2.9 %**	**52.9 %**	**44.3 %**	**0.0 %**	**10**
7）小グループ学習方法	**5.7 %**	**70.0 %**	**18.6 %**	**5.7 %**	**12**
8）教育評価の原則	**2.9 %**	**45.7 %**	**51.4 %**	**0.0 %**	**8**
9）評価方法とその特性	**2.9 %**	**61.4 %**	**35.7 %**	**0.0 %**	**9**
10）改善への抵抗の克服	**14.3 %**	**48.6 %**	**28.6 %**	**8.6 %**	**0**

2. 上の各項目のうち，非常に興味を持ったものの番号をいくつでも下に記して下さい。
（回答数は上の表の右端の数字）

資料 3.7　ワークショップ総合評価質問 3 の回答のまとめ

3. 今回のワークショップを，全般的に評価してください。*（回答は各質問の最下段の数字）*

（1）内容の価値についてどう評価しますか。

価値なし	価値少ない	いくらか価値あり	かなり価値あり	きわめて価値あり	無回答
0.0 %	**0.0 %**	**13.5 %**	**70.3 %**	**16.2 %**	**0.0 %**

（2）内容に対する時間量はいかがでしたか。

多すぎ	やや多い	ほぼ適当	やや少ない	少なすぎ	無回答
5.4 %	**10.8 %**	**40.5 %**	**32.4 %**	**10.8 %**	**5.4 %**

（3）内容の難易をどう感じましたか。

きわめて難しい	やや難しい	ほぼ適当	少し易しい	易しすぎ	無回答
5.4 %	**33.8 %**	**58.1 %**	**2.7 %**	**0.0 %**	**5.4 %**

（4）このようなワークショップ形式の教育方法としての効果についてどう思いましたか。

効果なし	効果少ない	ある程度効果的	かなり効果的	きわめて効果的	無回答
0.0 %	**2.7 %**	**16.2 %**	**67.6 %**	**10.8 %**	**2.7 %**

（5）このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

全く不適切	やや不適切	ある程度適切	かなり適切	きわめて適切	無回答
0.0 %	**8.1 %**	**32.4 %**	**45.9 %**	**13.5 %**	**0.0 %**

・科目の立て方がよく理解できた。
・短時間でテーマを選択し，発表する。
　個々人の発表 and/or 表現技術
・授業教育法について改善できると期待しています。
・グループ学習を自ら体験できた。
　他分野の専門家と色々と議論，話し合いができた事。
　T.F & Director 皆さんありがとう。
・全体を通して質の高い討論ができた。
・新人に対しての動機を与えること
・北大のあるべき姿を学部を超えて議論できたことが良かった。
　シラバス，教育方針の立てかたがよく理解できた。
・体系的な教育制度の構築方法
　横断的な学部間の交流
・よく Organize されている。
・授業計画作成ができるようになった。
　多くの人達と知り合い議論できたこと。
・発見が多かった点を評価したい。
・グループ作業の形で問題の原因（課題）から将来の計画まで「一貫性」をもって議論したこと。
・一つの目的に合目的的，合理的プロセスでのぞまれる system 的アプローチそのものが参考になりました。（日赤のプログラムに近い）
　「シラバスの精度」の意味がわかった。
・活発にアイデアが出され，刺激になった。
　グループ作業では夢中になることができた。
　参加者が積極的に作業を行い，かつ討論を行っていたことに圧倒された。

質問5「今回のワークショップ全体にわたり，良くなかったと思われる点（改善すべき点）」に対する回答は次の通りである：

・Debate のテーマは別のものがよかった。
・ディベートのテーマ選択が適切ではなかった。反対派に不利
・時間的余裕をもう少し持ちたかった。
・(作戦だったと思いますが)一つのセッションでの作業時間が少ない。ややてんこ盛り
・各グループの報告に対して技術的な批判が十分に行なえなかった点
　講義方法の具体的実習があっても良いかと思われる。
・北大の教育全般について，frame work なしで，Q & A の時間があってもよかった。
　group の idea だけでなく，個人の idea を出すチャンスがあってもよかった。
・group 全体の時間の割当が少ない。
　ワークショップ自体にもっと，メディア技術を用いる方がよい。
・今の所思いつかないのですが …
・実際の授業方法の改善についての実例がほしかった。
・gruop working に対する presentation 量が多すぎて説明が雑であった。
・分きざみ
・タイト過ぎると思いました。
・発表用の OHP を整理する時間が5分ほど欲しかった。
・食後のプログラムは避けるべきである。
・時間が短すぎる（盛りだくさん）。
・講義の方法についてのワークショップがなかったのが少し残念。
・教育方法に直接関係のない項目
　「コア」はなぜ資料が入れられたかわからない。
・シラバス作成はできるようになったが，講義技術についての示唆も欲しかった。
・グループが固定してしまった点
　他のグループのメンバーと交流しづらい。
　別な時期にしてほしい。
・女性の教官の参加者を増やす工夫をすべきだ。
・スケジュールの厳しさ
・４日くらい使って各技法などの詳細まで体得したかった。
・グループ作業１は説明だけで充分，必要ない。

質問6，7に対する回答をまとめたものがそれぞれ資料3.8である。

質問8「このワークショップの成果に関連して，今後１年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにして下さい」に対する回答は次の通りである：

・若い Faculty member に内容を伝えたい。
・シラバスの改善
・学生に向けて，授業プログラム を再提出したい。（シラバス改訂）
・学部のシラバスの書き方が変わらないとできない部分が多いが，授業にあたっての計画を作る参考

資料 3.8　ワークショップ総合評価　質問 6，7 の回答のまとめ

6．　1）このワークショップで示されたような教育学的方法を今後取り入れようと思いますか？

全く取り入れる気はない	余り取り入れようとは思わない	少し取り入れて見たい	かなり取り入れて見たい	大いに取り入れたい	無回答
0.0 %	0.0 %	37.8 %	51.4 %	10.8 %	0.0 %

2）上において３～５に○をつけた方は，現時点であなたの教育の現場で実現の見通しは？

きわめて難しい	かなり難しい	ある部分では可能	かなり可能	全面的に可能	無回答
2.7 %	5.4 %	52.7 %	33.8 %	2.7 %	5.4 %

7．今後ともこういうワークショップを持つことに対して

反　対	とくに持たなくてもよい	持ってもよ　い	持つ方がよ　い	是非持つべきである	無回答
0.0 %	0.0 %	27.0 %	25.7 %	47.3 %	0.0 %

にする。
・来年度の自分の分担に関するシラバスの作成に生かしたい。
・教授，学習方略
小グループ学習方法
授業設計の改善
・専門教育（3～4年）に対するFDのあり方の検討。
・導入科目のシラバスの作成
・現在行っている，学生参加授業のグレードアップ。
現在行っている，学生参加授業の回数増加，内容の拡大
自己反省
同僚への伝達
・カリキュラムの再検討
・とりあえず，学部の講義をしている教官全員にP52～59のコピーを配付，説明したい。（編集者注：「講義の方法」と「チェックリスト」のこと）
・自分の授業に対する第三者評価（学生，授業のビデオ撮影）
部局シラバスの再編集
部局カリキュラムの再検討
・講義方法。
成績評価。
・シラバス作成に活用したい。
グループ学習に役立てたい。
教科の評価法に役立てたい。
魅力ある講義にしたい。
他の教官にもこの冊子をコピーして渡したい。
・シラバスの書き直し
・シラバスの見直し
評価の方法の改善
・評価法を客観的に修正する。
学生参加型授業を試みる。
・授業設計への活用
・まず，復習
・自分の講義への応用。

同僚，他大学の教員と教授法について意見交流。
・体系的な教育のあり方
・自分のシラバスの改良
講義方法の改良
学部内への資料の配付
大学院講義方法の検討
・セミナーのあとの小グループ討論
・教授，学習方略の改善及び評価方法の改善を図りたいと思う。
・自己の持つ３つの Lecture の polish up
学部 FD に本 FD のノウハウ，spirit を伝える。
本格的学部 FD のスケジュール立案計画